

[002]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/4102258>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 2, 2020-07-31. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



巻 頭 言

附属環境工学研究教育センターを挙げた環境教育への取り組み



センター長 島岡 隆行

2018年に設置されました附属環境工学研究教育センター長を仰せつかりました。どうぞよろしくをお願いいたします。

附属環境工学研究教育センターには、ローカル、インターフェース、グローバルの3つの研究ハブが設置されており、工学研究院の広い分野にわたる研究者が環境研究を進めています。環境に関わる諸問題は、各地域（ローカル）で発生した公害問題が大气・海洋等の様々な伝播機構（インターフェース）により地球規模（グローバル）に影響が広がり、そして、到達した地域（ローカル）に環境問題を生じさせるといった発生機構を持っています。ローカル、インターフェース、グローバルの各階層における適切な技術開発、施策にはグローカルな視点が必要であり、グローカルな視点がなければ根本的な環境問題解決には至りません。

本年度は、ローカルハブ、インターフェースハブの研究に関する公開講座「安全で豊かな暮らしを守る環境政策と環境技術」を開催し、研究成果を社会に問うことができました。附属環境センターの名称には「教育」を付しており、環境教育、啓発活動にも力を入れております。「科学広場 in おおむた」及び「未来 Innovation in 九州（旧：ビジネスショウ&エコフェア）」には継続的に参加しています。「科学広場 in おおむた 2019」は、インターフェース研究ハブの研究者が担当し、漂着ごみの展示と解説によって、小学生、市民の方々に、海洋プラスチックによる海洋汚染の実態と解決にはグローカルな視点からの取り組みが不可欠、重要であることを学んでいただきました。今後は、海洋プラスチックの問題を陸域から根本的に解決すべく、海と人とのつながりを調べ、附属環境センターの研究ハブの横断的な調査研究に取り組み、成果を公開講座に反映させます。教材はwebサイトを活用し、公表することとしています。

最後になりましたが、附属環境工学研究教育センターは3年度目を迎え、環境問題の解決を通して、持続的な社会の構築に寄与する研究教育活動により一層、活発に取り組む所存です。皆様方におかれましては、当センターの活動に対する今まで以上のご支援を賜りたくお願いする次第です。よろしくお願い申し上げます。